Japanese Association of Art Education　Newsletter No.117　October 20th, 2024

美術科教育学会通信 No.117

2024年10月20日

■巻頭言　■第47回 岡山大会案内（第二次案内）　■理事会報告　■第13期学会役員選挙通知　■学会誌『美術教育学』のJ-STAGEでの公開完了について　■三学会の学会誌投稿論文規程等の共通化について　■岡山大会での［ 論文投稿ランチカフェ ］のお知らせ　■理事通信　■2025年度第48回東京大会について（予告）　■本部事務局より

巻頭言　Introduction

対話をつくる

Dialogue is Necessary in the Future

副代表理事　三澤一実（武蔵野美術大学）
Deputy Director: Kazumi MISAWA, Musashino Art University

1. 伝える努力が必要な時代

本年度中に美術科教育学会叢書４号５号がいよいよ発刊になるらしい。楽しみにしていたので待ち遠しい。

先日『造形実験』という本を出版した。そこでも感じたことであるが，本を１冊生み出すというのはその裏に並々ならない編集者の助力がある。専門的見地から，また，一般市民の目線から率直な疑問や意見を呈し，そのことで，浅い考えや伝わらない表現に気づかせてもらった。編集者は常に書き手と読み手の間に立ち，あるときは筆者の立場から，あるときは読者となり，原稿を何度も読み返して文章の意図が正しく伝わるように点検をする。あらためて編集者の力の大きさを感じた次第だ。学会叢書ではその大変な役割を叢書委員会が分担していることに心底頭が下がる。形になるまで見届ける責任感とモチベーションからは，研究者，教育者として，自身の知見を活かし次の世代に繋ぐ新たな研究の発芽に期待する姿勢を強く感じるのである。

最近「記号接地」という言葉をよく聞く。記号とは言葉を示し，言葉の意味を実感として理解する，いわゆる接地するという意味であるが，AI と人間の思考に関わる大きなキーワードとなっている。私たちはリンゴと聞くと，甘酸っぱい果実で，その味覚を想像する事ができる。と同時に，手に持ったときの触覚や，囓った時の感触，その時，歯に伝わる微妙な振動と，同時に溢れ出た果汁の感覚。同時に匂いも音もイメージとして頭の中に浮かんでこよう。さらにはその時の周囲の状況，友達と一緒なのか又は一人なのか，どこでリンゴを囓ったのか，その時感じた感情など様々なエピソード記憶がリンゴという記号（言語）にまとわりつき，一人一人のリンゴにまつわるイメージとして形成されていく。その記憶は極めて個人的な記憶なのであるが，リンゴに対して似たような体験を持つ人は共感できるイメージとして共有されるのである。

「フィルターバブル」という言葉も多くの人に知られてきたと思う。一定の偏った思考や傾向を持つ者が皮膜〔バブル〕に覆われている状態で，その皮膜の中だけで自身の生活が完結している状況を言うのであるが，今日のネット社会ではこのフィルターバブルの誕生に AI も加担しバブルは日々増殖している。AI は個別最適な生活空間をつくり出す上で，一人一人の欲望や志向に合わせて情報を提供してくる。フィルターバブルの中ではいつの間にか自分を取り巻く世界が自分にとって都合の良い情報だけにさらされている。その心地よさに浸ると，異なるものの存在が見えなくなったり，一旦，避けられない異なるものに出会うと攻撃的な対立を生み出したりする。近頃どうもその様な社会に進行しているように感じる。

伝わるか伝わらないか，どうしたら伝わるか，その様な試行錯誤の体験を教育の中では大切にしていく必要があるのだろう。大切な意味はそう簡単には伝わらない。なので，対話が必要であり，対話の中で相手の世界を感じ取り小さな合意形成を繰り返して納得できる解を求めていく。私たちはこの面倒くさい手続きを忘れてしまうと大変なことになると思う。意味が理解できない記号で綴られた文章が，受け手の体験と接地することなく，形式的な言葉だけで人々を動かすようにな

ったときに，そのシステマチックな判断の中で私たちは身体がつくり出した感性という自分自身を忘れていくと思うのである。

2. 朝鑑賞という取り組みの中で

８年前から「朝鑑賞」という取り組みを始めた。これは小中学校で行われている朝読書に対して，週に１回程度，クラス全員で絵を見ようという取り組みである。鑑賞のファシリテーターは学級担任や担外の教師も協力して，学年，学校全体で取り組む 10 分間の鑑賞活動である。この活動は授業ではないので，目標や評価も不要だ。ただ作品を学級で見て感じたことを発言し合うだけである。教員が行なうファシリテーションもメソッドに頼ることなく先生自身に考えてもらう。なので，なかなか活動が浸透していかない。「型」を求める先生が多いのである。学校は時間との勝負であり，限られた時間の中で効率的に学力をつけさせるというシステムで働き続けた教師にとっては，意味や価値を一人一人がつくり出す鑑賞は大いに手こずる 10 分なのである。

朝鑑賞については成果も出ている。学力向上や自己肯定感，メタ認知の向上など数値化されてきた(坂戸市立桜中学校 2019)。また実践現場から「緘黙の児童が手を上げた」とか「不登校の子がその日だけ登校する」などのエピソードも蓄積されてきた。長野県の東御市では，市の文化スポーツ振興課が朝鑑賞の取り組みを教育委員会と連携して取り組み始めた。「対話できる子どもたちの育成は，30 年後に地域をつくる力になる」と“地域づくり人づくり”として位置づけ，市内全小中学校で昨年度から朝鑑賞に取り組みはじめた。

朝鑑賞では，教師は子どもたちに多様な発言を促し，一見「何を言ってるの？」と思われる発言に対してもその発言の理由を聞き出し，子どもたちも「なるほど」と頷く。その瞬間が自身の体験と他者の発言とが接地して，共感と理解が生まれていく時なのである。この共感が子どもたちにとって安心安全な学級につながっていくのである。そして教師は一人一人の子供が発する言葉を通して子供理解を深めていく。美術は異なるもの同士をつなぐ媒体となって機能しているのである。

3. AI と 鑑賞活動

人間は高度な言語を持つことによって，一人一人の内面世界を理解し，生涯を通して発見してきた真理や経験を文字言語に置きかえ次世代に繋ぎ続けてきた。文字言語は人間社会にとって人の感情を動かし，行動を生み出す強い力を持ち続けてきた。今はその膨大な知識を AI に学ばせ，いつでも必要なときに抽出しようとしている。これまでは人が自身の経験を通して身体から生み出してきた言葉が，これからは体験せずとも AI が生成する言葉を使える時代になってきた。そのような中で人間の感情と結びつく美術作品は多様な視点から語ることが出来る。そして人の数だけ解釈が生まれる。少し大げさだが，作品を自分なりにみることは AI 時代における人間性の維持にならないだろうか。

4. ある理事の言葉

“みること”は美術作品だけに限ったことではない。先日ある理事がフィールドワークの必要性を話していた。今日の業績システムの中で論文の本数が重視され，なかなか時間のかかる実践研究が少なくなってきたのではないだろうかと。実践研究はたしかに時間がかかり研究成果の評価も難しい側面がある。研究のフィールドも限定された特殊な条件下なのか，又は一般化できる結果を生み出せる条件なのかによっても異なる。協力者も必要だ。「学会としてこれからの美術教育に新たな提言をしていくためには共同研究も必要ではないか。それこそ，チームで科研費でも採って異なる視点や考え方を持った研究者が，一つのテーマを多角的に捉え探究していく必要があるだろう」と。このような取り組みは，自分を取り巻く世界を広げ，自分にとって都合の良い情報だけにさらされている状況を打破していく切っ掛けにもなるかも知れない。

5. 美術教育の異なる団体と議論する

現在，本学会が世話役として次期学習指導要領に向けて「全日本美術教育会議」という会議体を立ち上げ，これからの美術教育に対しての提言を取りまとめ，本年度中に文部科学省に対して提出する予定で動いている。前回の学習指導要領改訂に際しても本学会を含む美術教育関連８団体による美術教育連絡協議会が組織され「美術教育提言」を松野博一文部科学大臣ほかに提出してきた。その後この連絡協議会は自然休会となってしまった。

学習指導要領の改訂ごとに立ち上げ，終わったら休会となるようでは対話の機会が限られてくる。また，集まった８団体は重複する会員も多く，一歩離れて俯瞰すれば，各団体の個性も見えなくなってしまう。

先に述べた朝鑑賞では対話を通してメタ認知が向上した。ある中学校では進路選択が例年になく早く決まった。つまり他者の存在が自分自身を知る切っ掛けになったのである。

今回の全日本美術教育会議では，美術家連盟も参加する。また美術教育に関心のある企業や団体も加わる予定である。異なるもの同士の対話を通して，学会や個人の研究の独自性がより明確に浮かび上がってきたら，そして美術教育の魅力と必要性を社会に伝えることが出来たら，もっと楽しい時代になると思うのである。

第 47 回 岡山大会案内（第二次案内）

Notice of the 47th Conference in Okayama：Details about the Conference

第 47 回美術科教育学会岡山大会

大会実行委員長　赤木里香子（岡山大学）

■会期：2025（令和７）年３月 22 日（土）・23 日（日）（両日とも受付 9：00）

■大会テーマ：Art の縁辺から学びを考える

美術またはアートとせず敢えて Art と掲げ，人間のさまざまな行為が織りなされて“わざ”や“すべ”になっていく過程を捉え，日常生活や他の学問領域と接する縁辺から，「学び」の意味を考えてみたいと思います。そこで，心理学・工学・教育学・リハビリテーション学だけでなく，デザインや芸術などの学際的社会活動型アプローチによって，学びの個別最適化を目指しておられる中邑賢龍（なかむら けんりゅう）先生をお迎えしての講演とシンポジウムを企画いたしました。また，ふじえみつる先生からも，STEAM 教育に関するご講演をいただきます。そのほか，学会国際局による企画や実行委員会企画など，盛りだくさんな二日間となりそうです。詳細は追って大会サイトでお知らせします。皆様のご参加と口頭研究発表のご登録を，心よりお待ち申し上げます。

第 47 回 美術科教育学会 岡山大会 実行委員会

実行委員長：赤木 里香子（岡山大学教授）　事務局長：清田　哲男　（岡山大学教授）

実行委員　：鳥越　亜矢　（中国短期大学教授）　大平　修也　（岡山大学講師）

才士　真司　（岡山大学准教授）　松浦　　藍　（岡山大学助教）

妹尾　佑介　（岡山県立玉島高等学校教諭）　森　　弥生　（岡山大学非常勤講師）

■主催：美術科教育学会

■会場：岡山大学津島キャンパス（〒700－8530　岡山市北区津島中３－１－１）

大会受付：教育学部講義棟１階

口頭発表会場・理事会等会場：教育学部講義棟　２～４階・本館４階

講演・シンポジウム会場：創立五十周年記念館・岡山大学共育共創コモンズ２階大講義室

■懇親会日程・会場：３月 22 日(土)18：00～20：00　岡山大学生協南福利施設ピーチユニオン４階

■後援（予定）：岡山県教育委員会，岡山市教育委員会，岡山大学

■理事会日程：2025（令和７）年３月 21 日(金)

■総会日程・場所：2025（令和７）年３月 22 日(土)　13：30～14：10　岡山大学創立五十周年記念館

■大会参加費・懇親会費

	大会参加費		懇親会費（※定員 100 名）	
	事前申込	3/15 以降の申込	**事前申込**	3/15 以降の申込
支払い方法	**Peatix で清算**	**Peatix で清算**	**Peatix で清算**	**Peatix で清算**
正会員※	**4,500 円**	5,000 円	**5,000 円**	6,000 円
会員以外(一般)	**5,500 円**	6,000 円	**5,000 円**	6,000 円
学生会員※※	**2,500 円**	3,000 円	**5,000 円**	6,000 円

※「大学美術教育学会」又は「日本美術教育学会」の会員は本学会会員と同様に，正会員の料金で参加できます。

※※「学生会員」は，本学会に「学生会員」として登録済みの会員のことを指しています。なお「学生会員」に該当している方は，在職の有無は問わず，「学生会員」の料金でご参加いただけます。それ以外の学部生・大学院生，聴講生，研究生，科目等履修生は「正会員」「会員以外(一般)」のどちらか該当する方となります。

■参加登録・演題登録（口頭発表申込）の期間について

岡山大会 web サイトはオープン次第，美術科教育学会 HP（ https://www.artedu.jp ）で URL を周知します。

参加登録の事前申込期間は，**2024 年 12 月１日（日）0 時 00 分** から **2025 年３月 14 日（金）23 時 59 分まで**です。事前申込期間後も大会当日まで参加を受け付けますが，現金の授受は行わず，Peatix で清算します。

演題登録期間は，**2024 年 12 月１日（日）0 時 00 分** から **2025 年１月 10 日（金）23 時 59 分まで**です。

■参加登録・演題登録などの申込方法

岡山大会 web サイトから，リンク先の Peatix を開き，各種の申込と参加費等の支払いを行なってください。申込種別は，①大会参加登録（大会参加申込），②演題登録（口頭発表申込），③懇親会申込，④昼食(弁当)申込の４種類です。クレジットカード払，コンビニ払，ATM 払に対応可能です。領収書については Peatix の領収データをご利用ください。

■演題登録（口頭発表申込）の注意点

・令和６年度までの学会年会費未納の方は発表できません。必ず納入してください。

・②演題登録をされる方は，申込時に①大会参加登録で支払い手続きが完了した際に画面表示されるチケットの QR コードの右上にある＃の番号が必要となります。前もって①の登録を済ませ，**発行されたチケット番号を記録しておいてください**。

・複数人で共同発表を行う場合は，筆頭発表者が演題登録を行ってください。筆頭発表者は，共同発表者が大会参加登録と参加費支払いを済ませたことを確認し，発表者全員分のチケット番号と学会会員の会員番号を演題登録の際に記入してください。

・②の演題登録（口頭発表申込）の手続き完了時に，概要集の原稿の形式や送付先，送付方法をお伝えします。

■大会までのスケジュール

（１）発表者のスケジュール（研究部会の発表者も以下に準じます）

参加登録期間（参加費納入期間）	2024 年 12 月 1 日（日）～2025 年 1 月 10 日（金）
演題登録期間	2024 年 12 月 1 日（日）～2025 年 1 月 10 日（金）
発表概要集原稿　提出期間	2024 年 12 月 1 日（日）～2025 年 1 月 19 日（日）
大会 web サイトでの発表スケジュールの公開	2025 年　2 月 10 日（月）（予定）

（２）参加者のスケジュール

参加登録（事前申込）	2024 年 12 月 1 日（金）～2025 年 3 月 14 日（金）
大会 web サイト発表スケジュールの公開	2025 年 2 月 10 日（月）（予定）
参加登録（事前申込期間後）※名札準備あり	2025 年 3 月 15 日（土）～2025 年 3 月 21 日(金)
参加登録（事前申込期間後）※名札準備なし	2025 年 3 月 22 日（土），23 日（日）

■口頭発表について

（１）発表資格

発表は，本学会会員（申し込み時点で，当該年度までの会費を完納していること）が筆頭発表者として出席することが条件です。共同研究の場合は，前回の弘前大会から，筆頭発表者が会員であれば，そのほかに何名でも発表資格を有する共同研究者として認められます。なお，発表者は全員，参加登録と参加費納入が必要です。

（２）発表時間 30 分（発表 20 分，質疑 10 分）

各研究発表の日時，会場についてはホームページでお知らせします。(2025 年 2 月 10 日頃)

（３）使用機器

発表にパソコンやタブレット等を使用する場合は，各自で持参してください。プロジェクターへの接続は HDMI が基本となります。Mac，iPad 等の接続は各自変換アダプターを用意してください。プロジェクター接続によりパワーポイント等で音声（音声つき動画を含む）を流すことを希望される方は，②演題登録（口頭発表申込）の際に投稿フォームの専用欄からその旨をお伝えください。

■会場までのアクセス

岡山大学ホームページ等でご確認ください。

■宿泊に関して

宿泊施設の確保・斡旋は行っておりません。各自で早めのご予約をお願いいたします。

■昼食・お弁当について

学会当日，教育学部から約 400m(徒歩５分程度)の岡山大学生協北福利施設マスカットユニオン２階の食堂が利用できますが，混み合うことが予想されます。また，学内のコンビニは土日休業となります。

お弁当の注文を，参加登録と同時に申し受けますので，ご利用ください。当日，学会会場にてお渡しします。なお，アレルギー対策等は行っておりませんことをご了承ください。

■大会日程（暫定版）

【１日目】2025 年３月 22 日（土）9:30〜17:40，懇親会　18：00〜20：00

9：00〜　受付　教育学部講義棟１階　（11:45 以降の受付は創立五十周年記念館１階ロビー）

9:30〜11:45	口頭研究発表 ①9:30〜10:00 ②10:05〜10:35 ③10:40〜11:10 ④11:15〜11:45	教育学部講義棟
11:45〜13:00	〜昼休憩〜（創立五十周年記念館への移動時間を含む）	
11:50〜12:40	学会誌投稿説明会（仮称）	創立五十周年記念館
13:30〜14:10	開会行事／総会	
14:20〜15:30	第２回 国際研究セミナー　InSEA 北米評議委員アニタ・シナー（Anita Sinner）先生（カナダ，ブリティッシュ・コロンビア大学教授）講演	
15:40〜17:40	中邑 賢龍 先生（東京大学先端科学技術研究センター シニアリサーチフェロー）講演／シンポジウム	
18:00〜20:00	懇親会・表彰式　17:30 受付　18:00 開始	ピーチユニオン４階

【２日目】2024 年３月３日（日）9:30〜17:25

9：00〜　受付　教育学部講義棟１階

9:30〜11:10	口頭研究発表 ①9:30〜10:00 ②10:05〜10:35 ③10:40〜11:10	教育学部講義棟
11:15〜12:35	①ふじえ みつる 先生（愛知教育大学名誉教授）講演 ②国際局・国際研究セミナー企画 ③岡山大学大学院教育学研究科附属国際創造性・STEAM 教育開発センター（通称：CRE-Lab.）　理科による創造性・多様性チャレンジの授業体験 ④　同　保健体育による創造性・多様性の授業体験　その他	共育共創コモンズ２階大講義室ほか
12:35〜13:30	昼休憩	
13:30〜15:45	口頭研究発表 ①13：30〜14:00 ②14:05〜14：35 ③14：40〜15：10　④15：15〜15：45	教育学部講義棟
15:55〜17:25	研究部会交流会	教育学部講義棟

■参加者へのお願い

公益社団法人おかやま観光コンベンション協会の補助金獲得のため，岡山県外からの参加者が岡山市内の宿泊施設に宿泊する延べ人数を名簿形式で報告する必要がありますので，宿泊情報提供についてご協力ください。ホテル等の宿泊予約を早めに行っていただき，Peatix にて「宿泊先の名称」「チェックインの日付」「チェックアウトの日付」を入力してくださいますよう，お願いいたします。お預かりした情報については厳重に管理・保護し，おかやま観光コンベンション協会への提出後は速やかに破棄いたします。

●岡山大会 web サイトは公開次第，美術科教育学会メーリングリストならびに美術科教育学会ホームページにてアクセス先をお知らせします。今後，新たな情報や追加情報をお届けする予定です。

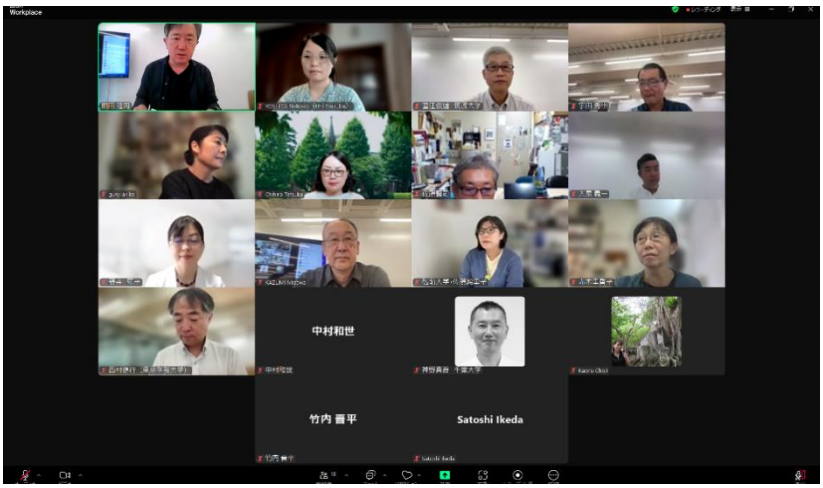
●問い合わせ先　岡山大会実行委員会事務局　okayama2025.jaaed@gmail.com
岡山大学 学術研究院 教育学域　美術教育講座
赤木里香子（大会実行委員長）　Tel.086-251-7657
清田　哲男（事務局長）　Tel.086-251-7663

第１回 理事会報告　／　第２回臨時理事会報告
Report on the Board of Directors Meetings

本部事務局　相田隆司（東京学芸大学）　吉田奈穂子（筑波大学）

美術科教育学会 2024（令和６）年度第１回理事会報告

2024（令和６）年度第１回理事会は，2024 年９月７日（土）14 時 30 分から 17 時 20 分まで，東京新宿区の武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス 503 教室を会場に，対面とオンライン(ZOOM) 併用によるハイブリッド形式で開催された。理事会冒頭，直江俊雄代表理事から開会挨拶が行われた。その後，理事の定足数の確認が行われ，本会には理事が 17 名出席し，欠席者からの委任も含め理事会成立条件が満たされていることが確認された。加えて，第 46 回弘前大会実行委員長佐藤絵里子氏（報告後退出）と議事録担当として本部事務局の吉田奈穂子氏が同席した。議事の進行は相田隆司副代表理事が務めた。



【理事会の様子】

審議事項

Ⅰ【総務部関連】

1. 第 46 回美術科教育学会弘前大会の収支決算報告について

第 46 回弘前大会の大会実行委員長である佐藤絵里子氏から資料に基づき大会の収支決算報告につき説明がなされた。審議の結果，原案通り異議なく承認された。

2. 第 47 回岡山大会の実施について

2025 年３月 22 日（土），23 日（日）開催予定の第 47 回岡山大会について，赤木里香子理事（岡山大会実行委員長）より大会の内容や，検討・準備中の講演，シンポジウム等，また今後のスケジュール等について資料を基に提案がなされた。大会テーマは「Art の縁辺から学びを考える（仮）」であり，内容や今後のスケジュールなどについて，審議の結果，原案通り異議なく承認された。審議においては，大会全体のスケジュール，主催者と責任の範囲等，招聘予定の海外研究者の渡航費や謝金の拠出先等に関して質問・意見交換があり，確認をした。

3. 2024 年度第２回理事会・総会の開催時期について

2024 年度第２回理事会と総会の開催時期について，第２回理事会を第 47 回岡山大会前日，総会については第 47 回岡山大会開催中に，いずれも対面にて実施する提案が相田副代表理事よりなされ，審議の結果原案通り異議なく承認された。

4.　美術科教育学会役員選挙について

竹内晋平理事（選挙管理委員長）より，第 13 期役員選挙に関して資料に基づき説明がなされた。第 13 期役員選挙における投票は，2024 年 11 月１日（金）から 11 月 30 日（土）までオンライン投票システムにて実施し，開票を 12 月に実施する。「美術科教育学会理事選挙　被選挙人名簿（案）」の確認と，投票における男女比に関する呼びかけを代表理事名で行うことの２点が審議され，審議の結果原案通り異議なく承認された。審議においては，被選挙人辞退者の推移に関する質問があった。

5.　新入会員及び退会者の承認について

本部事務局員の吉田奈穂子氏より資料に基づき，新入会員申込者 15 名，退会・退会予者 17 名について説明がなされた。審議の結果，原案通り異議なく承認された。2024 年８月末時点の正会員数は 616 名，学生会員は 32 名，賛助会員４団体，全会員合計 648 名となった。

6.　支局倉庫保管の資料等について

相田副代表理事より，支局の管理する倉庫に保管している学会誌のバックナンバーにつき，倉庫の空きスペース確保と管理のために支局に支払う費用節減のため，その一部を処分する提案がなされた。審議の結果，原案通り異議なく承認された。

7.　その他

（1）ウェブ関連

手塚千尋理事より学会ホームページの契約更新の時期について報告があり，昨年度と同じくドメイン使用料と学会ホームページの保守費用の支出について説明があった。審議の結果，原案通り異議なく承認された。

（2）インボイス制度導入に伴う学術研究出版との取り決めの変更について

直江代表理事より，インボイス制度の施行に伴い，学会叢書の発行等を行っている学術出版図書からあった，従来の還元料・著作権料の支払いについて，消費税の取り扱いが変更されることへの承諾依頼について，資料をもとに説明がなされた。今後，制度の施行に基づき，段階的に還元料・著作権料への消費税の加算がなされなくなることについて確認され，審議の結果，学術出版図書からの本依頼の承諾が異議なく承認された。

（3）総会委任状のオンライン化

直江代表理事より，従来ハガキ印刷し会員へ郵送していた総会の委任状を，オンラインにて実施することについて提案がなされた。審議の結果，原案通り異議なく承認された。これにより，今後，本部事務局支局と具体的な検討・相談等が行われることとなった。

Ⅱ　【研究部関連】

1.　学会誌第 46 号の査読体制について

大泉義一副代表理事より第 46 号の投稿状況と今後の査読日程等，査読委員候補者について資料に基づき説明があり，審議の結果，原案通り異議なく承認された。

2.　学会誌の EBSCO ホストへの収録について

池田吏志理事より，EBSCOhost（国際的な総合学術情報データベース）への学会誌の収録について，これまでの検討の経緯と現在の状況について，契約書等を含む資料を基にした説明があり，審議の結果，EBSCOhost への学会誌の収録が異議なく承認された。また，本件が全会員に関わる事項であることに鑑み，2024 年度総会で報告を行うことが提案され，異議なく承認された。さらに，何号から収録を開始するかについても審議され，審議の結果，学会誌掲載論文等著者への事前の案内の必要性等から，第 47 号から収録を開始する方向で進めていくことが承認された。

3. 三学会の学会誌投稿論文規程等の共通化について

美術科教育学会，大学美術教育学会，日本美術教育学会の三学会による，学会誌投稿論文規程等の共通化について，大泉副代表理事より説明があり，令和７年度からの学会誌投稿論文において統一が図られる内容等について確認がなされ，審議の結果，異議なく承認された。統一が図られる内容については，学会通信に掲載される予定である。

4. 岡山大会での「学会誌投稿説明会(仮称)」開催について

大泉副代表理事より，学会誌への投稿促進を目的として，岡山大会で「学会誌投稿説明会(仮)」を開催することについて提案がなされ，審議の結果，原案通り異議なく承認された。

5. 令和６年度（2025 年３月発表）第 22 回『美術教育学』賞選考について

令和６年度第 22 回『美術教育学』賞選考について，佐藤賢司選考委員長兼理事よりメンバーの変更について提案があり，オ号委員の蛯名敦子氏に代わり，和田学氏が加わることが審議され，審議の結果異議なく承認された。決定した委員は次の通り。

ア号委員…佐藤賢司（選考委員長）
イ号委員…直江俊雄（代表理事）
ウ号委員…大泉義一（学会誌編集委員長）
エ号委員…山木朝彦，竹内晋平（選考委員長推薦の理事）
オ号委員…村田透，和田学（学会誌編集委員長推薦の会員）

Ⅲ【事業部関連】

1. 2024 年度 InSEA 学会発表支援事業選考委員の選出

中村理事より 2024 年度 InSEA 学会発表支援事業選考委員として，直江代表理事，中村国際局長兼理事に加え，渡邉美香理事（代表理事が推薦する理事），山木朝彦理事（国際局長が推薦する会員）の選出が提案され，審議の結果，原案通り異議なく承認された。

Ⅳ【その他】特になし

【報告事項】

Ⅰ【総務部関連】

1. 会費納入状況・学生会員について

郡司明子理事より，会費の納入状況と学生会員の移行申請について資料をもとに報告がなされた。

2. 令和７年度第 48 回東京(早稲田)大会について

開催予定日として 2026 年３月 14（土），15 日（日）とすることが大泉副代表理事より報告された。

Ⅱ【研究部関連】

1. 学会誌の J-STAGE への掲載について

竹内理事(学会誌副編集委員長）より，J-STAGE での学会誌の即時公開に向けたこれまでの審議を経て，近日中に第 45 号までの公開が完了する予定である旨報告がなされた。

2. 学会誌の即時オープンアクセス方針への対応について

竹内理事(学会誌副編集委員長)より，2024 年８月 20 日に開催された，J-STAGE 即時オープンアクセス方針への対応説明会（科学技術振興機構）の内容について報告がなされた。今後，当学会のオープンアクセスポリシー等の検討，情報収集を継続的に行う必要性が確認された。

Ⅲ【事業部関連】

1. 第 47 回岡山大会の国際研究セミナーの内容

中村理事（事業部国際局長）より，2024 年８月７日に国際局のオンライン会議を行い，岡山大会における国際セミナーの内容について話し合われたことが報告された。話し合いの結果，次期学習指導要領の改訂に向けて，論点整理の内容を含めて企画を行う方針であることが報告された。

2. 次年度以降の国際研究セミナー申請方法

中村理事より，弘前大会および岡山大会の成果と課題を踏まえ，国際研究セミナーの事業規定等を国際局で作成する計画であることが報告された。なお関連して，2025 年７月にチェコ共和国で開催される InSEA 世界会議（発表概要締め切りは 2024 年 11 月 15 日)に関して，アクセス方法などの情報を学会通信等において会員で共有する必要性についての提案があり，中村理事よりあわせて準備を進める旨の回答がなされた。

3. 2024 年度第１回教科教育学コンソーシアム理事会報告

直江代表理事より，2024 年７月 31 日に行われた 2024 年度第１回教科教育学コンソーシアム理事会の内容と教科教育学コンソーシアムジャーナル第２号の編集状況，第３号の募集に関して報告があった。

4. 全日本美術教育会議

三澤一実副代表理事により，2024 年７月 14 日に開催された，第４回の全日本美術教育会議について報告があった。各団体から出された提案を整理したものを提言としてまとめ，10 月頃を目途に提言を公開し，意見収集を予定している旨報告がなされた。最終的には本年度中に文部科学省に提言を行う予定であることが確認された。なお関連して，学会と行政との間の対話的関係の構築を目指し，学会として継続的な検討と対応が必要である旨の意見があった。

5. 科研費増額要望への賛同募集について

三澤副代表理事より，教育学関連協議会（担当：水島尚喜理事）より協力依頼があった科研費の増額を求める署名活動等への参加について報告があった。学会として参加する理由は，科研費の研究成果が公平に分配される必要があるためとされた。また，直江代表理事より補足があり，具体的な参加内容として，①学会名を賛同リストに載せる，②美術科教育学会のサイト等を通して当学会会員への呼びかけを行うことの，２点があげられた。具体的な対応方針は今後決定する。

Ⅳ【叢書企画編集委員会】

1. 叢書について

佐藤賢司理事より，美術科教育学会叢書第４号および第５号の刊行に向けた準備状況について報告がなされた。

Ⅴ【その他】 特になし

（以上）

・・

美術科教育学会 2024（令和６）年度 第２回臨時理事会報告

2023 年度総会への，会員からのご意見に対する回答として，一斉配信メールにて会員に発信された回答（2024 年５月 28 日発信）に対し，複数の会員よりご意見があり，それに対する回答と回答方法について 2024 年６月 13 日～６月 18 日および７月 15 日～７月 20 日の間，臨時理事会（電子メールによる審議）を開催し，審議の結果，了承された。

（以上）

第 13 期 学会役員選挙通知

Notice of Election of Officers for the 13th Period

選挙管理委員会委員長　竹内晋平（奈良教育大学）

本学会役員（理事）の任期満了（2025 年３月）【会則 第 14 条】に伴う理事の改選を下記の要領で行います。選挙はオンライン投票となっておりますので，ご留意いただき投票をお願いいたします。

記

1. 投票方法

オンライン投票システムによる。

（美術科教育学会ホームページ https://www.artedu.jp/ 上にオンライン投票システムへのリンクを掲載）

2. 投票

オンライン投票システム上に掲載される被選挙人名簿（候補者リスト）より 15 名を選びオンライン投票システム上で投票する。投票方法については，別に送付される「投票マニュアル」に則る。

（「投票マニュアル」は，全会員宛メールにて送付するとともに美術科教育学会ホームページ上に掲載）。

※ 本記事にも「投票マニュアル」の要約版を記載します。

3. 投票締切

2024 年 11 月 30 日（土）（オンライン上）

4. 無効投票

オンライン投票システムによる所定の投票手続きをふまないもの。

5. 開票

2024 年 12 月　　開票立会人（正会員より１名）　　青木 加苗（和歌山県立近代美術館）

6. 役員の選出

当選の決定は得票順とし，上位 15 名を選出する。受諾した 15 名を選出理事とする。【役員選出に関する細則　第 11 条，第 12 条，第 13 条】

7. 推薦理事および監事の選出

選出理事 15 名の合議により，監事（２名）を委嘱し，更に必要と認められた場合は，会員の中から推薦理事（若干名）を選出する。【役員選出規程 第６条，第 12 条】。

8. 任期

新理事の任期は，2025 年３月開催の学会総会において承認を得てから３年【会則 第 14 条】。2025 年３月から 2028 年３月まで。

9. 選挙管理委員（正会員より３名，敬称略）

竹内 晋平（奈良教育大学）
牧野 由理（埼玉県立大学）
宮野　 周（文教大学）

以上

※ 学会役員選挙にあたって

会員の皆様におかれましては，ご多用のなか，ますますご活躍のことと存じます。３年に１度の学会役員選挙の時期になりました。今後，３年間の学会運営の核となるメンバーを選ぶ選挙です。美術教育関連で役員選挙を実施している学会は多くはありませんが，本学会では，早くから役員選挙を実施して来ました。なお，日本学術会議協力学術研究団体では男女共同参画への取り組みの一環として，学協会役員の女性比率を高める必要性を掲げており，投票に際しては，そうした事情を勘案され，ご配慮を賜れば幸いです。より多くの会員が投票されるようお願いいたします。

美術科教育学会 代表理事　直江 俊雄

【オンライン投票システム「投票マニュアル」要約】

選挙は，ガリレオ社の提供するオンライン投票システムにより行います。以下の手順に沿って投票してください。

投票期間： 2024 年 11 月 1 日（金）00 時 00 分 ～ 2024 年 11 月 30 日（土）23 時 59 分　締切厳守

1. オンライン投票システムにアクセスする

オンライン投票システムの URL をブラウザのアドレスバーに入力いただくか，学会ホームページに掲載されているリンクよりオンライン投票システムにアクセスしてください。

2. ログイン画面より会員 ID（会員番号）とパスワードを入力し，ログインする（図１）

会員 ID やパスワードが不明な場合は，オンライン投票システムのログイン画面右側の【ログインできない方はこちら】ボタンをクリックしてご照会ください。

3. 投票する選挙を選択する（図２）

投票できる選挙（未投票）が表示されますので，選挙名称をクリックしてください。

4. 投票対象者を選択する（図３）

投票対象者は以下の２つの方法で選択が可能です。ご希望の選択方法によって投票対象者を選択してください。投票可能な票数は 15 票までです。

方法①「候補者リストから選択」

→ 【候補者リストから選択】ボタンをクリックすると，候補者リスト（50 音順）が表示されます。リストのチェックボックスにチェックを入れることにより投票対象者が選択できます。

方法②「直接，会員 ID，氏名を入力して選択」

→「会員 ID」「氏」「名」のいずれかの情報を入力し【追加】ボタンをクリックすると，投票対象者が選択できます。「氏」または「名」を入力して【追加】ボタンをクリックした場合に，複数候補者がいるときは「会員 ID」欄に【▼】が表示されますので，【▼】をクリックしてプルダウンから該当者を選択し，再度【追加】ボタンをクリックして投票対象者を選択してください。

5. 投票対象者選択の完了

投票対象者の選択が完了したら，ページ下部の【投票へ進む】ボタンをクリックしてください。（図４）

この際，定められた票数以上に投票すると，画面上部に図５のようなエラーメッセージが表示されます。

6. 投票選択者の最終確認と投票（図６）

選択された投票対象者の確認画面が表示されます。投票内容を修正する場合は，【投票内容の修正】をクリックし，投票対象者選択の画面へ戻ってください。投票内容に間違いがない場合は，【投票】ボタンをクリックし投票完了となります。【投票】ボタンをクリックした後，変更はできませんのでご注意ください。

7. 投票の完了（図７）

投票が完了すると，上掲「3.」の選挙選択画面へ戻り，「投票を完了しました。」というメッセージが表示されるとともに，完了した選挙が「投票済」と表示されます。一度「投票済」となった選挙については，投票内容の修正・再投票はできませんので，くれぐれもご注意ください。

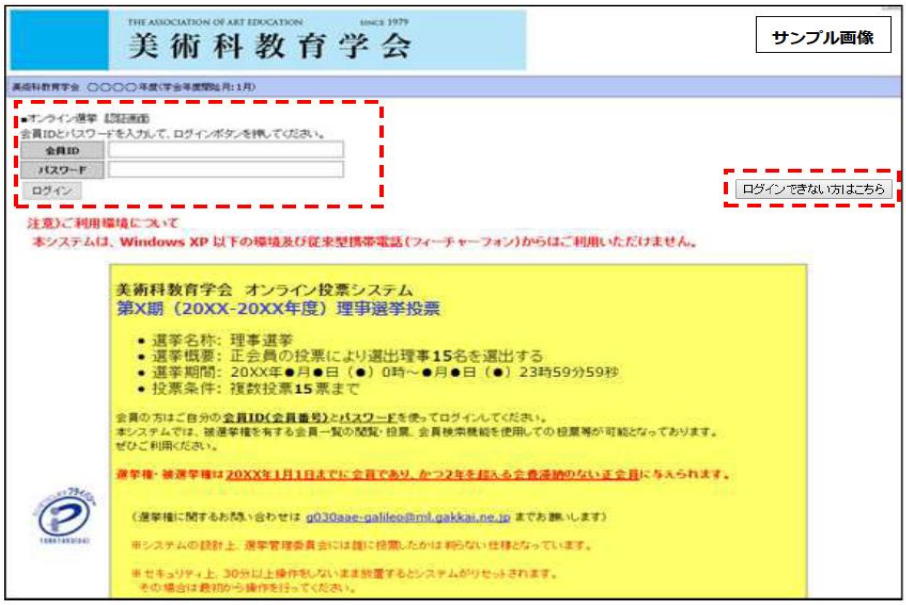

THE ASSOCIATION OF ART EDUCATION since 1979
美術科教育学会
サンプル画像
美術科教育学会 ○○○○年度(学会年度開始月:1月)
■オンライン選挙 認証画面
会員IDとパスワードを入力して、ログインボタンを押してください。
会員ID
パスワード
ログイン
ログインできない方はこちら
注意)ご利用環境について
本システムは、Windows XP 以下の環境及び従来型携帯電話(フィーチャーフォン)からはご利用いただけません。
美術科教育学会 オンライン投票システム
第X期 (20XX-20XX年度) 理事選挙投票
• 選挙名称: 理事選挙
• 選挙概要: 正会員の投票により選出理事15名を選出する
• 選挙期間: 20XX年●月●日 (●) 0時～●月●日 (●) 23時59分59秒
• 投票条件: 複数投票15票まで
会員の方はご自分の会員ID(会員番号)とパスワードを使ってログインしてください。
本システムでは、被選挙権を有する会員一覧の閲覧・投票、会員検索機能を使用しての投票等が可能となっております。
ぜひご利用ください。
選挙権・被選挙権は20XX年1月1日までに会員であり、かつ2年を超える会費滞納のない正会員に与えられます。
(選挙権に関するお問い合わせは g030aae-galileo@ml.gakkai.ne.jp までお願いします)
※システムの設計上、選挙管理委員会には誰に投票したかは判らない仕様となっています。
※セキュリティ上、30分以上操作をしないまま放置するとシステムがリセットされます。
その場合は最初から操作を行ってください。

図１

美術科教育学会 ○○○○年度(学会年度開始月:1月)
サンプル画像
■オンライン投票画面
ログインが完了しました
会員ID
099998
会員氏名
美術科教育学会 本部事務局支局
会員種別
事務局
1)下記の選挙一覧から、未投票の選挙をクリックしてオンライン投票を行ってください。
選挙名称(下段:概要)
投票／未投票
選挙期間
理事選挙
正会員の投票により選出理事15名を選出する
未投票
20XX/●/● 00:00:00 - 20XX/●/● 23:59:59
ログアウト

図２

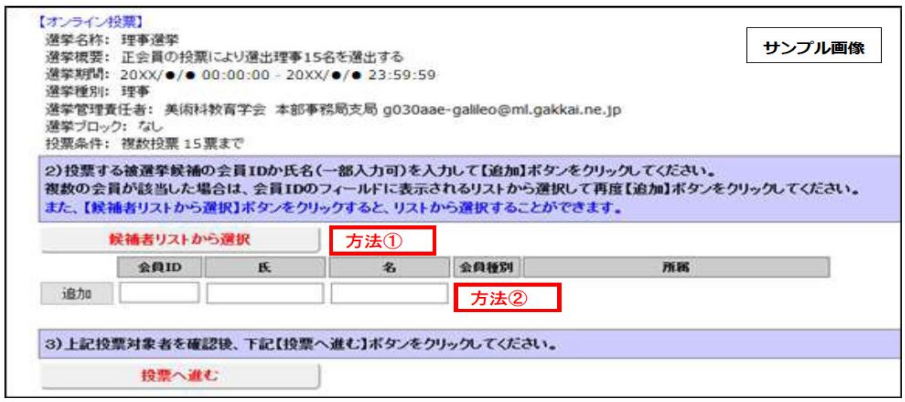

【オンライン投票】
選挙名称: 理事選挙
選挙概要: 正会員の投票により選出理事15名を選出する
選挙期間: 20XX/●/● 00:00:00 - 20XX/●/● 23:59:59
選挙種別: 理事
選挙管理責任者: 美術科教育学会 本部事務局支局 g030aae-galileo@ml.gakkai.ne.jp
選挙ブロック: なし
投票条件: 複数投票 15票まで
サンプル画像
2)投票する被選挙候補の会員IDか氏名(一部入力可)を入力して【追加】ボタンをクリックしてください。
複数の会員が該当した場合は、会員IDのフィールドに表示されるリストから選択して再度【追加】ボタンをクリックしてください。
また、【候補者リストから選択】ボタンをクリックすると、リストから選択することができます。
候補者リストから選択
方法①
会員ID
氏
名
会員種別
所属
追加
方法②
3)上記投票対象者を確認後、下記【投票へ進む】ボタンをクリックしてください。
投票へ進む

図３

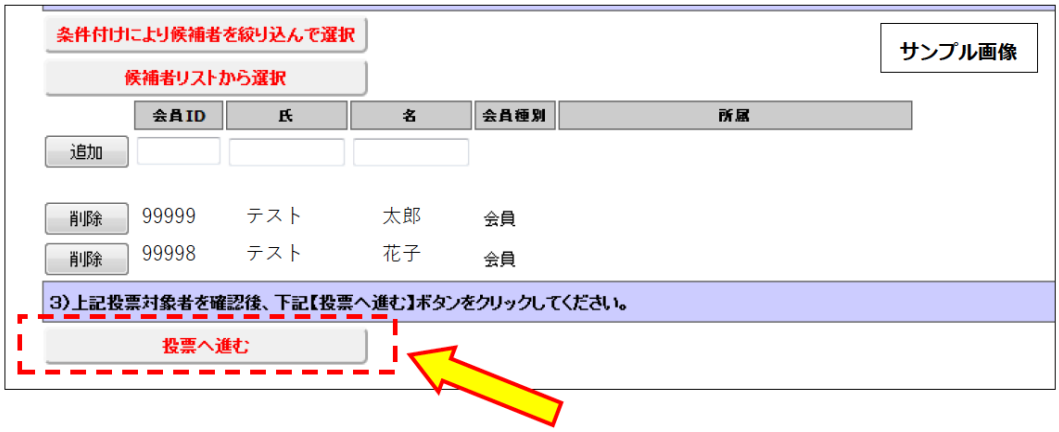

条件付けにより候補者を絞り込んで選択
候補者リストから選択
サンプル画像
会員ID
氏
名
会員種別
所属
追加
削除 99999 テスト 太郎 会員
削除 99998 テスト 花子 会員
3)上記投票対象者を確認後、下記【投票へ進む】ボタンをクリックしてください。
投票へ進む

図４

美術科教育学会 ○○○○年度(学会年度開始月:1月)
サンプル画像
■ オンライン投票画面
選択した被選挙候補者が多すぎます。投票は 15 票までに限ります
選択候補者数: 20 / 15
会員ID 099998 会員氏名 美術科教育学会 本部事務局支局 会員種別 事務局

図５

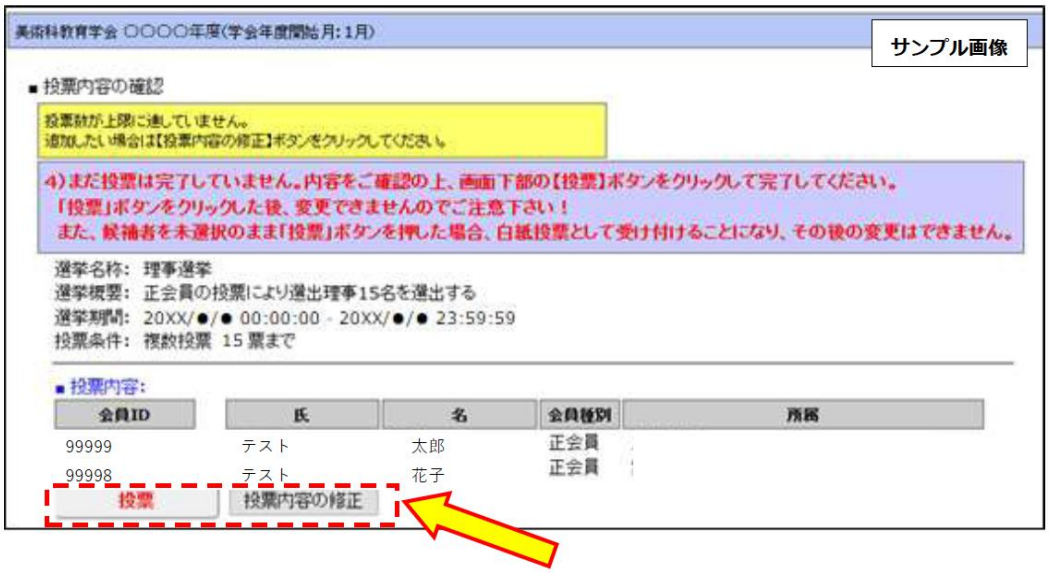

美術科教育学会 ○○○○年度(学会年度開始月:1月)
サンプル画像
■ 投票内容の確認
投票数が上限に達していません。
追加したい場合は【投票内容の修正】ボタンをクリックしてください。
4)まだ投票は完了していません。内容をご確認の上、画面下部の【投票】ボタンをクリックして完了してください。
「投票」ボタンをクリックした後、変更できませんのでご注意下さい！
また、候補者を未選択のまま「投票」ボタンを押した場合、白紙投票として受け付けることになり、その後の変更はできません。
選挙名称: 理事選挙
選挙概要: 正会員の投票により選出理事15名を選出する
選挙期間: 20XX/●/● 00:00:00 - 20XX/●/● 23:59:59
投票条件: 複数投票 15 票まで
■ 投票内容:
会員ID 氏 名 会員種別 所属
99999 テスト 太郎 正会員
99998 テスト 花子 正会員
投票
投票内容の修正

図６

美術科教育学会 ○○○○年度(学会年度開始月:1月)
サンプル画像
■オンライン投票画面
投票を完了しました。
会員ID 099998 会員氏名 美術科教育学会 本部事務局支局 会員種別 事務局
1)下記の選挙一覧から、未投票の選挙をクリックしてオンライン投票を行ってください。
選挙名称(下段:概要)
投票／未投票
選挙期間
理事選挙
正会員の投票により選出理事15名を選出する
投票済
20XX/●/● 00:00:00 - 20XX/●/● 23:59:59
ログアウト

図７

学会誌『美術教育学』の J-STAGE での公開完了について

Notice of Completed Open Access of the Journal on J-STAGE

学会誌副編集委員長　竹内晋平（奈良教育大学）

1. J-STAGE での即時公開に向けた審議経過と公開完了のご報告

従来，学会誌『美術教育学』の掲載論文を科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）で公開するタイミングは，冊子体を刊行してから１年後以降としてきました。これは，最新の掲載論文を読むことができる会員のプライオリティ，すなわち「読者側」のメリットに配慮した方針でした。先般，掲載論文の被引用数増加などの「著者側」のメリットを確保するという視点から，2023 年度 総会において冊子体刊行後に J-STAGE において即時公開することに関して審議・承認されました。以下，総会に至るまでの本件に関する審議経過をお伝えします。

- **2023 年９月**

  2023 年度 第１回理事会にて，学会誌・第 45 号(2024 年３月刊行)の J-STAGE での公開時期に関する意見交換が行われた。その結果，今後研究部で他学会の動向も調査したうえで，第２回理事会(2024 年２月)での審議を目指して検討を行うことが確認された。

- **2024 年２月**

  2023 年度 第２回理事会にて研究部より，他の学会の動向を概観した結果，一定の割合で冊子体刊行後に J-STAGE での即時公開を行っていることについて説明がなされた。加えて，J-STAGE 登載業務のアウトソーシングに関する事務手続きの観点からも，刊行後すぐにデータを提供して作業依頼を行うことが望ましい(担当理事が交代する年度を想定)ことも付言された。その後，研究部より「学会誌・第 45 号以降は刊行後，すぐに J-STAGE 登載業務を進め，公開(オープンアクセス化)する」ことについて提案がなされた。審議の結果，承認された。

- **2024 年４～５月**

  2023 年度 総会（メール開催）にて，学会誌・第 45 号以降に掲載される論文の J-STAGE での公開時期は，学会誌刊行後のできるだけ早い時期とすることについて提案がなされた。審議の結果，承認された。

以上の審議を経て現在は，学会誌『美術教育学』の最新号である第 45 号までの J-STAGE での公開が完了しております（https://www.jstage.jst.go.jp/browse/aaej/-char/ja）。本件審議に際して貴重なご意見を賜りました会員・理事の皆様に，心より感謝申し上げます。

この即時公開により，今後は学会誌『美術教育学』に掲載された論文が，より早く検索・閲覧の対象となります。また，これまで著者は冊子体と別刷によって最新の研究成果を発信していましたが，URL の送信のみで最新の学会誌掲載論文を共有することができるなどの研究成果の情報化が進みました。ぜひ，今回の即時公開による情報化に伴うメリットを研究成果の発信と交流，研究指導等にご活用いただけますと幸いです。そして今回の公開完了が，会員諸氏による研究成果の被引用数が増加する契機となれば幸いです。

なお，冊子体の刊行から J-STAGE 上での公開が完了するまでには，全掲載論文についての文献情報の整理・確認の作業，そして登載後のデータ確認の作業等のための準備期間を要しております。この準備期間につきましては，従来よりも短期間とはなりましたが「読者側」のメリットとして会員の皆様にいち早くお届けする冊子体をご活用いただき，最新の掲載論文をご閲覧いただければと考えております。

2. 学術論文の即時公開をめぐる最近の動向

内閣府に設置されている「総合科学技術・イノベーション会議」の決定により，2025 年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者に対しては「学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後，即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける」[1] との方針が示されました（2024 年２月）。本学会としては国レベルで，そして国際的にも学術論文のオープンアクセス化が加速している現状を注視し，このような動向によって会員に求められる対応に沿ったシステム構築を検討していきたいと考えております。

1）内閣府 Web サイト「総合科学技術・イノベーション会議（第 71 回）議事次第」，https://www8.cao.go.jp/cstp///siryo/haihui071/haihu-071.html

三学会の学会誌投稿論文規程等の共通化について

Notification Regarding Article Submission Guidelines

学会誌編集委員長　大泉義一（早稲田大学）

日頃より本学会活動にご協力賜りましてありがとうございます。

三学会（美術科教育学会，大学美術教育学会，日本美術教育学会）で組織する「造形芸術教育協議会」における検討を通じ，来年度（2025（令和7）年度『美術教育学』第47号）以降の論文投稿に関して，下記の通り変更がございますので，ご連絡申し上げます。

令和6年4月

三学会の学会誌投稿論文規程等の共通化について

美術科教育学会学会誌編集委員会 委員長　大泉 義一
大学美術教育学会 学会誌編集委員会 委員長　小池 研二
日本美術教育学会 学会誌編集委員会 委員長　藤田 雅也

美術科教育学会・大学美術教育学会・日本美術教育学会（以下，三学会）では，投稿者（学会員）が各学会誌に論文を投稿する際のメリットを鑑みて，三学会の学会誌投稿論文規程等の共通化について，令和5年5月から令和6年2月にかけて，三学会の学会誌編集委員長を中心に検討を重ねてきました。

そして，本事案について，三学会で組織する「造形芸術教育協議会」の第15回協議会（令和6年3月10日）にて審議を行った結果，提案が承認されました。その後，三学会の各理事会・委員会等での審議を経て，令和7年度発行の学会誌から，標記課題に対する解決の一歩として「参考文献・註の表記」ならびに「図・表の表記」の統一から取り組むことが決定しました。

令和6年度中に三学会の各学会誌投稿論文規程等の改正を行い，令和7年度からの投稿論文においては，以下の統一を図ってまいりますので，ご理解いただけますようお願いします。

改正に伴う具体的なご案内については，追ってお知らせします。

1. 参考文献・註の表記の統一

註の番号は該当する文節の末尾上（右肩）に通し番号1)，2)，3)・・・（出現順）で示す。註で文献を記す場合は，以下の順に全角カンマ（,）で区切って示す。海外の文献についても同様とする。

(1) 和文雑誌

著者，発行年，「論文名」，『雑誌名』，雑誌の巻（号），発行所（学会名），頁

例：1）安東恭一郎，金政孝，2014，「科学と芸術の融合による教育の可能性と課題：韓国STEAM教育の原理と実践場面の検討」，『美術教育学』，35，美術科教育学会，pp.61-77

(2) 和文書籍

著者，発行年，「章など」，編者，『書籍名』，出版者（発行所），頁

例：（単著の例）

2）岡本太郎，1954，『今日の芸術：時代を創造するものは誰か』，光文社，pp.215–234

（編者がいる場合の例）

3）垣内国光，2011，「共感共生労働としての保育労働」，垣内国光（編），『保育に生きる人びと：調査に見る保育者の実態と専門性』，ひとなる書房，pp.17–19

(3) 翻訳書

原著者姓(姓名原語表記)，訳者名，発行年，『書名』，出版社（発行所），頁

例：4）V.ローウェンフェルド（Viktor Lowenfeld），竹内清他訳，1963，『美術による人間形成：創造的発達と精神的成長』，黎明書房，pp.28-29

(4) 欧文雑誌

著者，発行年，“ 論文名”，雑誌名（イタリック），巻（号），頁

例：5）Mitsuru Fujie, 2003, “A Comparative Study of Artistic Play and Zoukei-Asobi”, *Journal of Aesthetic Education*, 37(4), pp.107–114

(5) 欧文書籍

著者，発行年，“章など”，編者，書名（イタリック），出版者（発行所），頁

例：（単著の例） 6）Ruth H.K. Wong，1974，*Educational Innovation in Singapore*,The Unesco Press，pp.1–6 （編者がいる場合の例） 7）Kevin Crowley, Palmyre Pierroux, and Karen Knutson，2014，“The museum as learning environment”，In Keith Sawyer (Ed.)，*The Handbook of the Learning Sciences*，Cambridge University Press，pp.461–478

(6) ウェブサイト

例：8）美術科教育学会 HP，https://www.artedu.jp/（2024 年 9 月 24 日閲覧）

(7) 「同上」及び「前掲」の表記

①同じ文献で通し番号が続いている場合は，既述の項目の重複部分を省略し，同上，該当頁を示す。

例： （和文） 9）同上，p.22（又は pp.22-23） （欧文）10）Ibid.,p.22 (又は pp.22-23)

②通し番号は続いていないが既述の同じ文献を引用する場合は，著者名（姓のみ），前掲註番，頁を示す。

例： （和文）11）木下，前掲 5，pp.160-165（又は p.160） （欧文）12）Howard Gardner，*op.cit.*，p.122 (又は pp.122-123)

③同一著者による前掲文献が複数ある場合は，著者名（姓のみ），前掲註番，「文献名」，頁を示す。

例： （和文）13）岡本，前掲 2，『今日の芸術：時代を創造するものは誰か』，p.234 (又は pp.234-235) （欧文）14）Howard Gardner，*op.cit.*，*Creating Minds*，p.122 (又は pp.122-123)

2. 図・表の表記の統一

(1) 原則として，図表は本文中に貼り付け，段組の幅を基準とした統一感のあるレイアウトを心がける。図・表の左右には本文を割り付けない。

(2) 学会誌はモノクロで印刷されるため，現物の図・表は黒一色で作成された鮮明な版下を提出する。ただし，査読用にはそのコピーを提出すればよい。

(3) 本文及びキャプションには，原則として「図」あるいは「表」という表記を使い，「写真」「作品」及び「グラフ」等の表記は使わない。

(4) キャプションの位置について

①「図」：図の左端に合わせて左詰めし，図の下段に「図 1」「図 2」（出現順）と記し，タイトル等をその右に続けて記す。

②「表」：表の左端に合わせて左詰めし，表の上段に「表 1」「表 2」（出現順）と記し，タイトル等をその右に続けて記す。

以上

岡山大会の第一日目(3 月 22 日(土))に［*論文投稿ランチカフェ*］を開催します。

Notice of Lunch Cafe in the 47th Conference in Okayama

研究部担当副代表理事長　　大泉義一（早稲田大学）

本学会誌『美術教育学』は，これまで 45 号を刊行し，美術教育の学術面を支え促進してきました。

この度，学会誌編集員会の企画として，2025 年３月に開催される第 47 回美術科教育学会岡山大会において，下記の通り学会誌への投稿をテーマにした「***論文投稿ランチカフェ***」を開催いたします。

大会一日目の昼休みに，持参されたランチをとりながらご参加いただけます。

どうぞお気軽にご参加ください。

- 開催日時　　岡山大会第一日目 2025 年３月 22 日（土）の昼休み（11：50～12：40）
- 会場　　岡山大会会場教室（「研究概要集」でお知らせします）
- 内容（予定）

（１）学会誌投稿のポイント

・投稿手順の実際などの基本事項と見逃しがちな留意点などの説明

・第 47 号からの文献引用の表記法変更（三学会共通化）について

（２）論文掲載著者による体験談・アドバイス

・青木善治 先生（滋賀大学大学院 教育学研究科 高度教職実践専攻（教職大学院））

「考える力, 表現する力, かかわり合う力を育て, 自己肯定感を育む図画工作 ： 低学年の子どもの造形活動における相互行為の論理に基づく臨床的教育実践研究」（2010 年，第 31 号）など

・森田亮 先生（明星大学 デザイン学部 デザイン学科）

「肢体不自由特別支援学校の図画工作・美術科指導に関する研究動向と教育実践上の課題：国内文献レビュー」（2023 年，第 44 号）など

（３）質疑応答

理事通信　Director's Message

国際貢献に向けた複数の通路

理事（研究部）　池田吏志（広島大学）
Director: Research Department, Satoshi IKEDA, Hiroshima University

学会における活動

学会では，今期より理事となりました。研究部で学会誌編集委員を務めています。また，教科教育学コンソーシアムや全日本美術教育会議にも美術科教育学会からの協力者として参加をしています。

学会の将来に向けて

現在，本学会では，代表理事や国際局の先生方を中心に学会の国際化が図られています。では，国際化という場合，どのような方法が考えられるでしょうか。もしかすると，国際化といったとたん，“教育は国内の文脈で行われるものだから私とは関係ない”とか，“私は英語ができないから無縁だ”といったことでその可能性を断ち切ってしまってはいないでしょうか。実は私にもその傾向がありました。なぜなら，正直なところ私はスピーキング，リスニング，ライティング，リーディングのほとんどが十分にできないためです。しかし，ここ数年，海外の学術雑誌に論文を投稿しています。

これにはいくつか理由があります。一番の理由は外的な要因です。私が勤務する広島大学では SCI （Science Citation Index），SSCI（Social Science Citation Index），ESCI（Emerging Sources Citation Index）といわれる，国際的に評価の高いデータベースに収録された学術雑誌への論文掲載が強く求められており，それに対応する必要がありました。美術教育の学術雑誌のいくつかは，少数ではありますが，これらのデータベースに収録されており，InSEA が発行する *International Journal of Education Through Art* も，ESCI に収録されています。

このような外的な要因に後押しされ，半ば見切り発車で国際誌に投稿を始めました。しかし，投稿すれども投稿すれども連戦連敗。多くはデスクリジェクトされ，一回目の査読が「要修正」で返ってきても再投稿では修正不十分で不採択ということが続きました。これはまるで，美術科教育学会に投稿し始めた頃のようでした。その原因は，私の英語力の問題もありますが，一番の原因は，国際的に議論されている内容を理解できていなかったためです。例えば，障害のある子ども達の美術教育の研究になぜミシェル・フーコーが引用されているのか，また，なぜ特別支援教育が批判されるのか，さっぱり分からなかったのです。結果，最初に国際誌に採択された論文は，実践から数えて 5 年かかりました。ただ，近年では，少しずつ論文が採択されるようになっています。

では，なぜ採択されるようになったのか。そこにもいくつか要因があります。最も大きな理由は AI の進歩です。翻訳サービスに AI による Deep Learning が導入され，日進月歩の進化を続けています。このことにより，読むことは劇的に改善され，英語論文を読む時間の短縮と内容理解が容易になりました。もちろん，AI 翻訳だけでは不十分で，本文を参照しながらチェックをする必要はあります。しかし，何が議論されているのか，中心的な研究者は誰か，当該テーマはどのような経緯で批判と改善が図られてきたのかといったことが，複数の論文を読むことで，日本語の文献研究を行う場合と同様にできるようになったのです。そうすると，国際動向からみた自身の研究の強みと弱みが分かり，自分達の実践や研究を国際的な文脈に位置付けることが可能になりました。その結果，米国の NAEA が発行する *Studies in Art Education* や，英国の NSAED が発行する *International Journal of Art & Design Education* にも論文が採択・掲載されました。

では，なぜ私がこのことを書くかというと，もちろん恥知らずに成功体験を誇示したい訳ではありません。大げさに言えば，国際的な知の共有と発展に日本からも貢献できると考えるようになったためです。日本の美術教育が世界に向けてどのような新しい知を提供し，現代的な問題の解決に貢献できるのか，また，現在国際的に議論されていることに対して私達がそれをどのように受け入れ／受け入れないのか，受け入れるのであれば，どのように国内の美術教育に組み込み，発展させられるのか，受け入れないのであれば，その理由はなぜなのかといったことを発信し，現状を批判的に捉え，さらに改善の道筋を示していくことは，美術教育研究の発展に寄与でき，広くはより良い社会への貢献に繋がると考えています。

国際交流，国際貢献には様々な通路があります。いまだ私の英語力は不十分ですが，AI の登場により，日本語で読み書きするように英語を使えるようになりました。英語が苦手だけども自身の研究を国際的な文脈に位置付けてみたいという方も多いと思います。その方はぜひ一緒に勉強していきましょう。

理事通信　Director's Message

聴き入ることの美術教育

理事（本部事務局）　　郡司明子（群馬大学）
Director: General Affairs Department, Akiko GUNJI, Gunma University

美術教育界隈を聴く

人は，先行きが不透明なときこそ文化芸術（アート）を創造し，必要としてきました。そして，今，あらためて世界や社会において文化芸術教育の価値が注目されており，美術教育もその渦中にあることは言うまでもありません。2024 年２月には，ユネスコが「文化芸術教育のためのグローバルフレームワーク」を提言，文化と芸術の生涯学習を保障し教育政策の中心に据えることを強調しています。今なお，世界各地で紛争が絶えない中にあり，ユネスコ憲章に基づく世界平和を文化芸術教育に託す切実な指針です。日本でも 2023 年から「文化芸術教育の充実・改善に向けた検討会議」が発足し，学びの本質を重視した授業展開の重要性を指摘しています。具体的には，教科等横断（STEAM）における芸術への期待，伝統や文化に関する教育から国際理解への接続，演劇教育・パフォーミングアーツ等の価値，が挙げられ，総じて ICT の有効活用と身体活動の重視が際立っています。教育のみならず，アートと経済（「アートと経済社会について考える研究会報告書」2023 年），アートと健康・ウェルビーイング（国立アートリサーチセンター等）の動向にも注目したいところです。このように，多方面から文化芸術教育の重要性が指摘されるなか，私たち美術教育は何を拠り所にどの方向へ進むのでしょうか。

対象の声を聴く

先日，卒業研究指導の一環で，老舗の香専門店にて「日本の香り文化の継承と創造」を目的としたワークに参加しました。香道の成立とその歴史にふれ，沈香，伽羅，白檀といった香木の種類やその特性を知り，実際に香炉で香りを「聞く」体験へと続きます。それぞれの香りの違いに集中して，その香りの特徴を自分なりの「言葉」にしてみます。甘み，酸味，苦味，～のような，と別のものに例えるなど，香りのポイントを直感で掴みます。伽羅の香りからは，幼い頃，母親と共にした親戚のうちの奥座敷の情景，遠い記憶が鮮明に蘇ってきました。香りが個人特有の記憶と結びつくことは，かの有名なプルーストの小説におけるマドレーヌのエピソードにもありますが，ほんの２㎜ 程の小さな香木片に誘われる記憶の蘇生は，日常をトリップする強烈な印象となりました。

ところで，香りは「聞く」という字が宛てられます。これには「神仏の食べ物である香気を介して神仏と対話をすることから，香を聞くという表現が出た」等，諸説あるようですが，講師の方いわく「香木が私たちに話しかけてくる，それを聴く」という説に私は膝を打ちました。倒木，虫食い，落雷といった偶然性を契機に樹の傷口に細菌が付着し長い年月をかけて，周囲の環境との関係性のなかで香木（沈香）が生成されるといいます。その木の辿った記憶が香りという声（ことば）として私たちに語りかけてくること，そこに耳を傾ける。それが香道の原点であるとするならば，美術教育の真髄にも通じる価値を見出せるのではないでしょうか。私たちは，造形活動を通じて対象（素材）の声を聴き，次の一手を探ります。子どもの釘打ちはどうでしょう。子どもは，木と釘の関係性を目や耳や手の感触から体全体の手応えとして探り，対象の声を頼りに修正をかけ，釘打ちを楽しみます。画用紙と水彩絵の具の関係，粘土との対話も然りです。対象が話しかけてくること，それを聴くこと自体を楽しむ，そんな美術教育にもつながるものごととの向き合い方を，香りの文化は教えてくれたのでした。

さて，世界から注目を集めるイタリアのレッジョ・エミリア市では，Pedagogy of Listening（ペダゴジー オブ リスニング：聴き入ることの教育）に基づき，子どもの「100 の言葉」を大切に受けとめる教育実践がなされています。生まれながらにして学ぶことに有能な「市民」である子どもの声（100 の言葉）に丁寧に聴き入ることを重視する教育です。素材（対象）の声を聴くことに特化し，その教育的意義を見出してきた美術教育に携わる我々は，子どもという存在に聴き入ることから全てが始まることを身体レベルで心得ています。それは日本人が紡いできた文化芸術における美意識にも通じることを，あらためて体感した香のワークでした。

美術科教育学会の会員の方々の声を聴く

「聴く」ということの重要性について述べてきました。今後の美術教育の方向性は，世界や社会の動向に聴き，そして目の前の子どもの声に聴き入ることから探る必要があります。さらに，美術科教育学会のあり方は，会員の方々お一人おひとりの声によって運営されていくものです。ぜひ，みなさまの率直なお声を学会本部にお届けください。美術科教育学会は，会員のみなさまとともにつくる学びのコミュニティでありたいと切に願っています。

理事通信　Director's Message

「学会通信」の編集に携わって

理事（総務部）　　藤井康子（大分大学）
Director: General Affairs Department, Yasuko FUJII, OITA University

私が本学会の「学会通信」の編集に携わることになったのは，令和４（2022）年３月に現理事で学会誌副編集委員長，教科教育学コンソーシアムジャーナル編集委員の竹内晋平先生の後を引き継いでからです。約２年半が経ち，ようやく「学会通信」の編集の進め方に慣れてきました。令和７年２月刊行予定の 118 号まで，会員の皆様へ本学会の運営や学会誌，全国大会等に関する重要な情報を分かりやすくお届けするよう編集業務に努めてまいりたいと思います。

竹内晋平先生の後を引き継いだ令和４年６月号（110 号）から現在まで，年３回の編集・刊行を担当してきました。今期・本部事務局において取り組ませていただいたことは，これまでの記事内容に加えて，直江俊雄代表理事ならびに中村和世理事にご指導いただきながら，本学会の国際化を推し進めるべく主要な記事のタイトルの英訳を行うことです。令和６（2024）年２月からは新たに「理事通信」の掲載が始まり，各理事からの会員の皆様に向けたメッセージを掲載するようになりました。紙面がより多彩になり，ボリュームのある内容になってきたのではないかと思います。学会通信を発刊した後に「読みごたえのある内容でした」，「今回も充実した内容でした。毎回楽しみにしています」といったお声をいただくことがあります。その度に，学会通信が会員の皆様の重要なコミュニケーションの機会となっていることを実感し，身が引き締まる思いです。

本学会の学会通信は，最新の情報を伝達するため年３回の刊行を行っています。毎号の刊行にむけて，次のような年間計画を立てて編集業務を行っております。毎号掲載する内容は，代表理事と副代表理事による「巻頭言」と巻末にある「本部事務局より」です。随時掲載する内容はリサーチフォーラムの予告・報告，書評，新刊紹介等です。会員の皆様による書評や新刊紹介等も随時受け付けておりますので，希望される方はお気軽にお問合せください。

（４月）本部事務局内で紙面内容とページ割りを決定します。20 日を目安に原稿依頼を行います。
（５月）20 日頃までに原稿を提出していただき，校正を行います。同時に，メール配信の内容と配信日等を決定し，メール配信の手続きを行います。
（６月）学会通信の刊行（20 日頃）。
内容は，「理事会・総会報告」，「収支決算書」，「予算案」，「全国大会の報告」，「美術科教育学賞選考報告」，「美術教育学賞・奨励賞受賞者の言葉」，「学会誌投稿案内」，「造形芸術教育協議会報告」，「教科教育学コンソーシアム報告」，「研究部会報告」，「リサーチフォーラム報告」，「理事通信」「全国大会予告（第一次案内）」等です。
（８月）　※４月に同じ
（９月）　※５月に同じ
（10 月）学会通信の刊行（20 日頃）。内容は「理事会報告」，「全国大会予告（第二次案内）」等です。
（12 月）　※４月に同じ
（１月）　※５月に同じ
（２月）学会通信の刊行（20 日頃）。主な内容は「全国大会（最終案内）」です。

各号の刊行にあたり多くの先生方からご協力とご指導をいただいております。本部事務局の先生方には，毎回の紙面内容の検討から始まり，原稿の執筆や依頼，原稿の取り纏め，紙面レイアウトの調整，原稿の最終校正，学会ホームページへの PDF ファイルのアップロードまで多くの作業にご支援を賜わっておりますこと厚く御礼申し上げます。

そして，学会通信には多くの方々の思いも詰まっておりますことを皆様に知っていただければ幸いです。本学会の発展のため，皆様にとって有益な通信になるよう努力する次第です。引き続きよろしくお願い申し上げます。

2025 年度 第 48 回 東京(早稲田)大会について（予告）

Notice of the 48th Conference in Tokyo (Waseda University) 2025

第 48 回 美術科教育学会 東京大会
大会実行委員長　　大泉義一（早稲田大学）

来年度（2025 年度）の第 48 回研究大会は，東京で開催されます。会場は，早稲田大学（早稲田キャンパス）です。

ご存じの通り，早稲田大学は大隈重信が 1882（明治 15）年に創設した「東京専門学校」を前身とし，1902 年に「早稲田大学」に改称されました。建学の精神は，「早稲田大学教示」に示されている「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」であり，学びたい人を拒まない開かれた大学であることの象徴として，早稲田キャンパス正門は「無門の門」として知られています。

その早稲田大学の早稲田キャンパスにおいて，本学会第 48 回研究大会が開催されます。本学会はもとより美術教育に関する学会の研究大会が早稲田で開催されることは史上初となります。そうした記念的な研究大会に，みなさまにぜひご参集いただきたく，下記の通り開催の予告をさせていただきます。

今からご予定いただけましたら幸いです。

大隈重信像と大隈講堂

1. 開催期日（予定）

2026 年３月 14 日（土）・15 日（日）　　（13 日（金）理事会）

2. 開催方法

対面開催（感染症流行の際はオンライン開催に変更）

3. 大会テーマと内容

今後，下記の通り実行委員会を組織し，検討・決定してゆきます。

口頭発表を中核に置きながら，講演会，シンポジウム，実行委員企画，総会を予定しています。

4. 会場

（1）研究大会会場

早稲田大学 早稲田キャンパス
〒169-8050 新宿区西早稲田１－６－１
（早稲田大学）https://www.waseda.jp/top/
（早稲田キャンパスへのアクセス）https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus
（キャンパスマップ）https://waseda.app.box.com/s/sr4l9i4ub4ai87fox7akj19a0umwad65

（2）懇親会会場

早稲田大学 早稲田キャンパス内の施設，あるいは近隣の施設を予定

「無門の門」：学ぶ者は拒まず

5. 参加費

未定

6. 大会実行委員会の組織

会場となる早稲田大学の美術専任教員は一人のみですので，近隣・遠隔を問わず，準備・開催運営にご一緒いただける学会員の有志を募り，実行委員会を組織いたします。

史上初の早稲田での美術教育に関する学会を創りだす現場でご一緒できれば嬉しいです。

なお，本大会に対するご意見やご要望等ございましたら，大泉（ oizumi@waseda.jp ）までお知らせください。

本部事務局より　Notice from the Secretariat

■ 2024 会計年度までの会費納入をお願いします

「2024 会計年度会費」は，2024 年７月末日までに納入いただくようにお願いしています。３月の大会，リサーチフォーラム，学会誌刊行などの学会運営は，会員の皆様の会費により運営されています。ご自分の各年度の年会費納入状況については，以下の「会員 情報管理システム」にログインすることにより確認が可能です。

https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/AAE

なお，納入状況に疑問がある場合には，下記の本部事務局支局アドレスにお問い合わせ下さい。

留意事項

学会誌への投稿並びに大会での口頭発表に際しては，投稿や申込みの時点で以下の２つの条件を満たしている必要があります。

①会員登録をしていること

②当該年度までの年会費を全て納入済みであること。

＊ 会費を２年間滞納した場合は，会員資格を失います。

会費納入に関するお問い合わせ先：
（株）ガリレオ 東京オフィス 担当者 和久津 君子氏
［窓口アドレス］g030aae-mng@ml.gakkai.ne.jp

■ 会費振り込み口座名・番号

会員の皆様に送付される振込用紙，郵便局にある払込用紙または銀行等からの振替により下記の口座に納入してください。

・銀行名： ゆうちょ銀行
・口座記号番号： 00140-9-551193
・口座名称： 美術科教育学会 本部事務局支局

通信欄には，「2022 会計年度会費」等，会費の年度および会員 ID 番号を記入してください。また，ゆうちょ銀行以外の銀行からの振込の受取口座として利用される場合は，下記内容を指定してください。

・店名(店番)： 〇一九(ゼロイチキユウ)店(019)
・預金種目： 当座 ・口座番号： 0551193

■ 住所・所属等変更，退会手続き

住所，所属先等に変更のあった方は，すみやかに本部事務局支局までご連絡ください。退会を希望される場合は，電子メールではなく，必ず文書（退会希望日を明記してください）を郵送にて，本部事務局支局宛にお送りください。あわせて，在籍最終年度までの会費納入完了をお願いします。

美術科教育学会 本部事務局支局
〒170-0013 東京都豊島区東池袋２丁目 39-2-401
(株) ガリレオ 学会業務情報化センター 担当 和久津 君子氏
［窓口アドレス］g030aae-mng@ml.gakkai.ne.jp

■ 新入会員

2024 年 3 月 31 日の第３回理事会以降，2024 年 8 月 31 日までに入会申込書が受理され，2024 年 9 月 7 日の第１回理事会で入会が承認された方は下記の通りです（学生会員を含む）。

伊藤駿　亀澤朋恵　清家颯　野網学　石田絵里香　青木良夢
近藤恵子　安見一葉　須長正治　秋本瑠理子　在原汰智
朝地信介　佐久本邦華　芝明子　根本淳子　（敬称略）

■ 学会通信（藤井）

年間３回の刊行（６月，10 月，２月頃）を予定しています（No.105 より，ペーパーレス発行に移行しました。希望者に対する紙媒体送付は，No.106 をもって終了しています）。紙面には，学会からのお知らせのほか，会員の皆様からの原稿を随時掲載します。寄稿のご希望があれば，発行日の２か月前までにお知らせください。

■ リサーチフォーラム（三澤）

リサーチフォーラムは学会主催として，研究発表・シンポジウムを実施する場です。募集等詳しくは学会ウェブサイト https://www.artedu.jp/ のメニュー「リサーチフォーラム」をご覧下さい。

■ ウェブ（手塚）

学会ウェブサイト https://www.artedu.jp/ には，随時，学会からのお知らせを掲載しています。研究会の開催告知等の掲載を希望される場合は，本部事務局までお知らせください。

■ 一斉配信メール

年３回刊行される学会通信が公開された際に一斉配信メールにてお知らせします。g030aae-galileo@ml.gakkai.ne.jp より配信しますので，受信できるよう設定を再確認いただきますようお願いします。また，必要に応じて学会通信ではカバーできない案内をお伝えしていきます。一斉配信メールは，状況に合わせて柔軟に配信します。

■ 「理事通信」について

学会通信において，従来の代表・副代表による巻頭言だけでなく，日々ご活躍いただいている理事からの会員向けメッセージを順に掲載することによって，学会の動きや各理事の考えなどをより親しく会員に伝え，学会の今後を共に考えていく機会を増やしていきたい。そのような思いから，2023 年９月の理事会で「理事通信」の欄を設けることをご提案し，115 号から掲載を開始しました。

今回の 117 号では，池田理事，郡司理事，藤井理事からのメッセージをお届けしています。今後の掲載予定は下記の通りです。（直江俊雄）

学会通信 118 号　2025 年２月
永守基樹　水島尚喜　山木朝彦

■InSEA 世界会議で発表をご予定の方へのご案内

2025 年 7 月チェコ共和国で開催される InSEA 世界会議で発表を予定されている方、発表概要の締め切り期限が迫っています(発表概要締め切りは 2024 年 11 月 15 日)。以下からアクセスし、お申し込み下さい。

https://www.artedu.jp/plugin/blogs/show/43/161/348#frame-161

（以上）

美術科教育学会 本部事務局
The Japanese Association of Art Education's Secretariat

■〒305-8574　茨城県つくば市天王台1丁目１－１　筑波大学芸術系
直江俊雄（代表理事/教科教育学コンソーシアム理事）naoe@geijutsu.tsukuba.ac.jp
吉田奈穂子（本部事務局員/会員名簿）yoshida.nahoko.gn@u.tsukuba.ac.jp

■〒184-8501　東京都小金井市貫井北町４－１－１ 東京学芸大学
相田隆司　（総務担当副代表理事/本部事務局長/庶務・会計・規約）t-aida@u-gakugei.ac.jp

■〒371-8510　群馬県前橋市荒牧町４－２　群馬大学
郡司明子（本部事務局理事/会費管理）gunji@gunma-u.ac.jp

■〒108-8636　東京都港区白金台１－２-37　明治学院大学
手塚千尋（本部事務局理事/ウェブ）tetsuka@psy.meijigakuin.ac.jp

■〒870-1192　大分県大分市大字旦野原700番地　大分大学
藤井康子（本部事務局理事/学会通信）fujii-yasuko@oita-u.ac.jp

■〒169-8050　東京都新宿区西早稲田１丁目６－１　早稲田大学
大泉義一(研究担当副代表理事/学会誌編集委員長）oizumi@waseda.jp

■〒187-8505　東京都小平市小川町１-736　武蔵野美術大学
三澤一実(事業担当副代表理事/リサーチフォーラム統括/8団体連携会議）kmis@musabi.ac.jp

□美術科教育学会 本部事務局 支局
■（株）ガリレオ(https://www.galileo.co.jp/)　学会業務情報化センター
〒170-0013　東京都豊島区東池袋２丁目39-2-401
（ 担当者 和久津君子 ）　TEL　03-5981-9824　FAX　03-5981-9852